



きくちや ゆうた
木口屋 裕太くん (10歳)
[あさひヶ丘]

- 趣味 サッカー
- 将来の夢 サッカー選手になること
- 自慢 運動が得意です!
- 今一番やりたいこと サッカーの試合

菊陽人 りさーち



「菊陽人りさーち」に掲載を希望される方は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している方に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらよりご連絡させていただきます。



きくちや なおき
木口屋 直希くん (7歳)
[あさひヶ丘]

- 将来の夢 サッカー選手になりたい
- 自分を一言で表すと マイペース
- 自慢 笑顔
- 今一番やりたいこと サッカー

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.9】

文字や絵で自分の体験をふりかえる。表現方法の違いはあってもその体験のなかで得た「学び合う喜び」が生活画・作文から伝わってきます。家族・学校・職場・地域社会などでこのように学びあえる人間関係をめざしていきたいものです。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

県人権子ども集会 実行委員会に参加して

菊陽中学校3年 伊藤あかり

私は人権集会の実行委員会に初めて参加させていただきました。二回という少ない回数しか参加できませんでしたが、私は多くのことを感じ、考え、学ぶことができたと思います。
一回目に参加して感じたのは、他の委員の「人権」に対する意識の高さ、そして思いでした。一人一人が自分のはつきりとした考えを持っていて、それに刺激され、私も改めて自分と向き合うことができました。私は自分にとっての「正しさ」は何なのか、少し見えたように思っています。一方で自分ができることを知ることができました。私にとっての「正しさ」は、いろんな場面が変わってくると思いますが、共通して言えるのは、自分のできることを精一杯した上で後悔のない選択をするのだと気づきました。今の私に、その選択がきちんと行えているかどうかは分からないけれど、委員として参加したことで、「できるよ」というと考えると、考えられるようになりました。
実行委員会の活動の中で、一番印象深かったのは、アピール文の作成です。皆の思いを知り、自分の思いを伝えたこの活動は、心に残っています。このときに、私は何のために人権集会を開くのか、考えさせられました。「差別

はいけない」、「差別をなくす」と呼びかけるだけの集会ではないと改めて知りました。私たちが「人権」を考えるきっかけになり、周りのこと、自分のことと向き合おうとする前向きなものだと感じました。
いろんな人の力で行ったこと、いろいろな人から伝えられること、それが残念です。自分たちから伝えることができず、本当に悔しいです。けれど、私たちが考えるきっかけが全て無くなったわけではありません。生活の中に、私たちが考えること、できることはきつと多くあると思います。これから自分のできることを精一杯やって、自分の「正しさ」を見極めていきたいと思えました。

おやすみのとき、 そっぴじぼした

なかよし園 富山さくら 5才

つぶやき
おやすみのとき じぶんのへやとトイレのおそうじぼした。おかあさんとした。ぞうきんば じぶんでしぼって ゆかばふいて ベットのゴシゴシするあおいので おそうじもした。おかあさんは トイレクイックルで うえのほうばふいた。おにいちゃんは おったけど なんぼしよったかわからん。おとうさんはおじごとだった。
トイレにおにいちゃんのおしっこが いっぱいついとったけん さくらがふいた。もう きれいになった。



生活画とは??
子どもたちはくらしの中で一人の生活者として色々な思いを感じながら生きています。楽しい事、嬉しい事はかりではなく不安に思っている事、願いや希望もあるでしょう。
そんな子どもたちがくらしをみつめ絵を描きます。その時子どもがくらしに耳を傾けると、くらしの中で思ったことや感じたことを話してくれます。文字を獲得していない子どもにとって絵は「おはなし」や「おてがみ」なのです。つぶやきを書き留めることで、子どもの思いを知る事ができます。子どもと向き合う時間を大切に、生活画の取り組みが生きる力に繋がっていくように続けていきたいと思えます。

きくよう文芸

菊陽句会報

諸たべし食しき頃やいま昔 闇掬ひ香りととのふ銀木犀 遠阿蘇へ江津湖より架く秋の虹 きざみ葱数多入れ足す夫の椀 冬うらら返事も仕草も佳人なる コスモスに隠れん坊する児の帽子 尋ね行く紅葉の里は静かなり 夕映えや紅葉散り積む隠れ里 咲き初めし山茶花散らす強き風 心沸くあれもこれもと文化の日 高野山歴史みつめる鱒雲 大きさはばらばら貫つた蜜柑だよ 夕方の芒の道はさびしいな 様変して肅肅と秋祭	坂本百合子 田中 郁子 村田 正三 井 子文 財津 早雪 原野レイ子 西村ひとえ カ 幸子 寺尾千代子 高橋 孝子 堀川 妙子 佐藤 航 佐藤 健 佐藤 節	晴れ渡り頼りの杖と秋惜しむ 四五鉢の菊に佳き日を手へられ バス降りて街灯暗き時雨露地 木犀の香に酔ふ今日の空の青 摘菜して朝餉一皿添ゆる色 木の实落つお遊び好きの児と一緒に 盆栽や日と追ふことに照紅葉 石路照らす日は傾きて白き月 さざれ石独り秋の音つれて 少し派手目に装ひて文化祭 菊の香や昭和は遠き物語り 父の里いづこにありや天の川 牧閉ざす日は親牛の腫濡れ 屠蘇ふむ家族八人皆宝	吉野 早苗 川口 豊子 井上久美子 宮川ユキエ 日高 妙子 曾我 育代 曾我トモ子 紫藤 祥子 村上 朋子 合志 重子 野口 令史 松橋 強 佐藤 澄世 三島 一路
---	---	--	---

短歌会

文楽の調べ流れる公園にブーメラン投げた親子遊びおり
澄みきりし夜空に昇る満月は重々として深き輝き
秋深く咲きて華やぐ花々を見上ぐる空にオリオン星座
時告げて楽鳴り来れば飼犬は音に合せて鳴きはじめたり
公園の花が見えると二階より亡き夫の声昨日のごとし
訪れる人の足音聞き分けて犬は玄関に走り出て待つ

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
皆島 宗菊
森 敦子